ノーサイド

北原　巌男

記憶

現役の自衛隊員の皆さんそして「防衛ホーム」の愛読者の皆さんは、いかがでしょうか？「それでいいんじゃないの」とか「同じだよ」と苦笑しながら頷いてくだされば、安心するのですが…。

今年も12月！

この時期になると、「光陰矢の如し」、「少年老い易く学成り難し」といった名言を思い出します。特に口惜しいのは、アッと言う間に過ぎ去って行った日々の記憶が、ほんの一部を除いて定かでないことです。歳のせい？ゾクッとする底知れぬ不安が頭をよぎります。

思えば昨年末、大きな本屋さんに所狭しと並んでいた様々な日記帳の中から、これは立派だ、これなら書き続けることが出来る、と確信して購入した日記帳。いつの頃からか開かれることもなく、ピカピカな姿のまま机の上に鎮座しています。来年は令和として新年からスタートする初めての年。東京2020オリンピック・パラリンピックの年。今度こそ日々の思いや記憶をきちんと書き留めて行こうと決意しています。しかし、なかなか新たな1冊を選ぶ決断がつかず、日記帳コーナー巡りが続きます。

ところで今年も台風や集中豪雨等の忘れ難い大規模自然災害が頻発しました。そうした中にあって、日本中の誰もが鮮明に記憶していることは、5月に天皇陛下がご即位され令和の時代を迎えたことでしょう。

11月10日には、ご即位に関する最後の国事行為である祝賀パレード「祝賀御列の儀」が行われました。多くの犠牲者・甚大な被害をもたらした台風19号の惨禍に配慮して、即位礼正殿の儀が行われた10月22日から延期になっていました。

当日は、雲一つ無い穏やかな日本晴れ。およそ11万9000人の皆さんが沿道に駆け付けました。笑顔で国民に寄り添い手を振り続ける天皇陛下と皇后陛下に、日の丸の小旗を振って親しみと祝福の歓声を送っていました。テレビの前でパレードの様子をご覧になられた全国の皆さんも、復旧作業に毎日懸命に取り組んでいる被災地の皆さんも、しばし等しく同じ気持ちを抱かれたのではないでしょうか。

この日、パレードの沿道となった国会議事堂前には、日の丸の小旗配りに汗をかいているボランティア集団がいました。東京都隊友会の松下事務局長をリーダーとする女性を含む約40名の皆さんです。かつて儀じょう隊員として活躍したOBもいます。次から次へと警察の厳重な検問を通過して来た皆さん一人ひとりに、「おめでとうございます！」と日の丸の小旗を渡していました。小旗を手にした皆さんは笑顔で応えながらも、すぐお目当ての観覧ブースに向かって走り去って行きます。しばらくして、こんなアナウンスが流れました。「全ての観覧ブースはいっぱいになりました」

大丈夫でしょうか。まだ検問を待つ太い人の波はどこまで続いているか分からないほどです。でも、皆さんは静かに整斉と並んで検問を待っていました。そして幾重にも重なり密集し、壁のようになった人々の後ろ姿の頭が、急に無数の日の丸の小旗の波に飲み込まれたのです。歓声も、一段と大きくなりました。

驚いたのは、その時まだ検問を終えていない沢山の皆さんから自然発生的に挙がった「バンザーイ！バンザーイ！」。ここからでは、パレードは全く見えませんし、今通過したのかどうかさえ定かではありません。そんな中での人々の力いっぱいの祝福。何かジーンと来ました。

日記を要しない、永く記憶に残る一日。

北原　巌男
（きたはらいわお）
元防衛施設庁長官。元東ティモール大使。現（一社）日本東ティモール協会会長。（公社）隊友会理事